

12月末に調査した2008年1月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。
2008年1月の消費意欲は、先月から3.4ポイント減少し、
54.1点でした。

1月としては2002年以降2番目の高さ。前年同月比は0.6ポイントの減少。

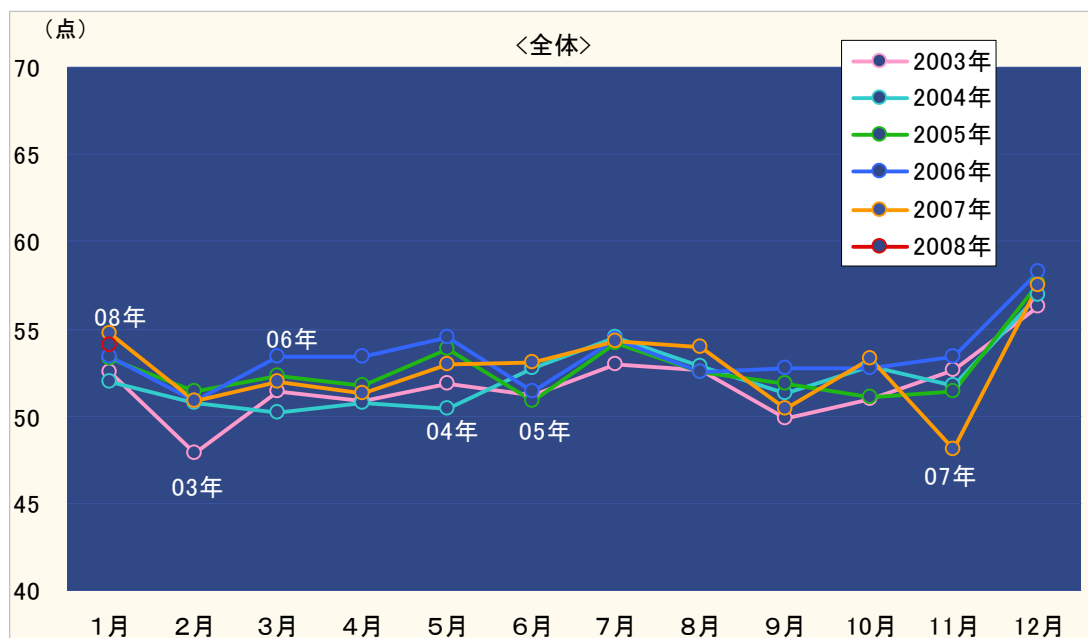
■ 「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

12月末時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者415名に対し「消費意欲（モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求）が最高に高まった状態を100点とすると、あなたの2008年1月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか？」と質問した結果が、「1月の消費意欲指数」です。

この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

■ 2008年1月の消費意欲指数は先月から3.4ポイント減少し、54.1点でした。

2008年1月の消費意欲指数は先月から3.4ポイント減少し54.1点となりました。前年同月比は0.6ポイントの減少で、3ヶ月連続で前年を下回りましたが、1月の指数としては2002年以降、昨年に次いで2番目の高さとなっています。



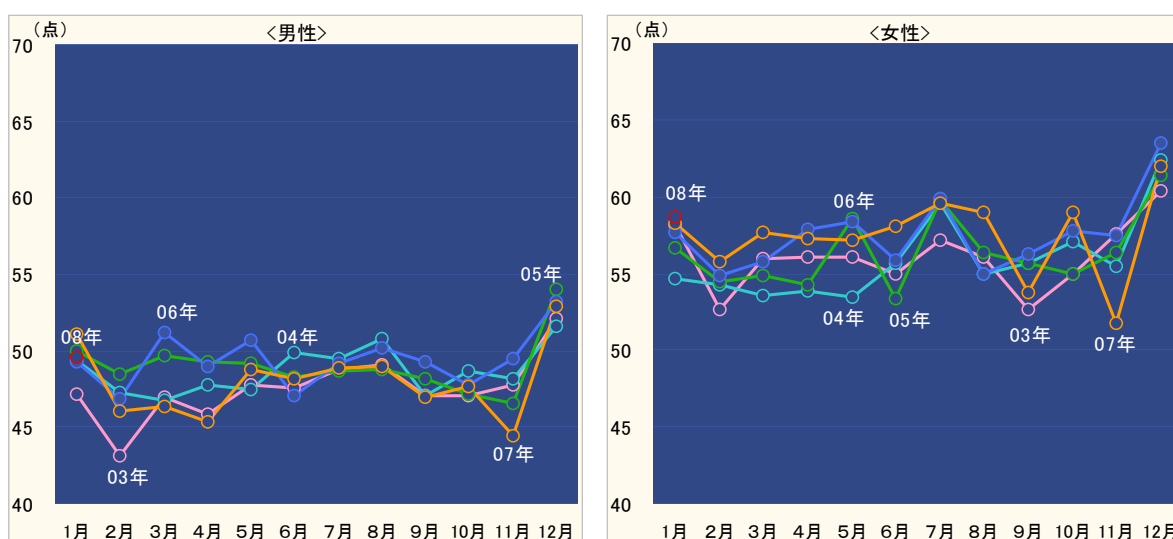
2008年は昨夏からのサブプライムローン問題の影響などで株安・円高・原油高という状況でスタートしました。今年前半は国内景気が減速する懸念がある、との観測もあります。また、日用品や食品などはこれからも値上がりが続く見通しで、生活者の今後の暮らしに対する防衛意識が高まっているようです。

このような状況の中で、1月の消費意欲指数は高い水準を示しましたが、2月以降指数がどのように推移するか慎重に見守っていきたいところです。

■ 女性の指数が2001年以降の最高値に。男性は前年割れが続く。

男女別の消費意欲指数をみると、男性が49.6点で先月比3.3ポイント減、前年同月比1.5ポイント減、女性が58.7点でそれぞれ3.3ポイント減、0.4ポイント増でした。女性の指数は2001年以降での最高値となりましたが、男性はこれで7ヶ月連続の前年割れです。男性の低迷を女性がカバーし、全体の指数を支えるという状況は今年も続きそうです。

同時調査の生活力点の「モノ消費」項目では、男性は「日常的な小さな買い物」「中くらいの買い物」「大きな値の張る買い物」がいずれも先月に比べ減少しています。女性は「大きな買い物」は若干減りましたが、冬物バーゲンへの期待もあり「日常的な買い物」「中くらいの買い物」はともに過去1年間で最も高くなっています。



※博報堂生活総合研究所のHP (<http://www.seikatsusoken.jp/>) では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要:HILL ネット調査】

調査地域:首都圏/調査対象者:19~73才の男女個人415人/調査方法:郵送法

本件に関する詳細のお問い合わせは
博報堂生活総合研究所(03-3233-6450)までお願いいたします。

